意宇川治水工事 不屈の精神

周藤彌兵衛の生涯紡ぐ

作家・村尾さん

取材重ね「悠久の河」出版

江津

江津市都野津町在住の作家、村尾靖子さん(71)が、江戸時代に松江市内を流れる意宇川の治水工事に生涯を捧げた周藤彌兵衛の偉業と人生を物語にした「悠久の河」(今人舎)を出版した。村と住民を洪水から守るため、42年間たった一人で槌と鑿で岩山を開削して川の流れを変えた彌兵衛の不屈の精神と誠実な生き方、支えた家族の愛を感動的に描いている。(渡部豪)

「悠久の河」を手に執筆時を振り返る村尾靖子さん

日吉村(現在の松江市八雲町日吉)の庄屋だった彌兵衛は1706年、私財をなげうち、大雨のたびに氾濫して村に壊滅的被害をもたらす意宇川の治水工事に着手。56歳からは一人で、硬い岩でできた剣山を42年間こつこつと切り開き、水害から村を守った。

村尾さんは執筆に当たり、日吉地区を訪ね、鑿の痕が残る岩場や周藤家の墓などを取材。数少ない資料を手掛かりに、幾多の苦境に直面しても鑿を打ち続けた彌兵衛の姿、妻や子どもたちの愛、神の山とされる剣山を切り崩す彌兵衛に対する村人の複雑な心情に思いをはせ、物語を紡いだ。

多くの子どもに読んでほしいと願い、漢字に振り仮名を付けたほか、全ページにカラーの挿絵を添え、英語の訳文も載せた。

村尾さんは「彌兵衛は『村の民の幸せがなければ庄屋の幸せはない』との信念で、諦めず大事業を成し遂げた。郷土にこんな素晴らしい人がいたことを、多くの人に知ってほしい」話している。

A4判80ページで、2500円(税別)。全国の書店で販売している。